

〔科目名〕 経営演習Ⅱ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 藤沼 司						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 経営理論の具体的諸課題への適用を通じた現実への理論的接近							
〔演習内容〕 現代経営(学)が抱える課題として、①環境問題、②文化多元性の問題、③人間性の問題が挙げられます。 経営演習Ⅱでの目標は、1・2 年次で学んできた、組織論、マネジメント論、環境経営論などを基礎としつつ、上記の諸課題の中からより具体的な問題への理論的接近を試みたいと思います。 そのため 1 年を通じて、複数のテキストをみんなで輪読したいと思います。その際、各章の担当を割り振り、レジュメを作成した上で、報告してもらいます。そのことを土台にして、これまでに学んできた諸理論を具体的な諸問題に適用することで、具体的な諸問題(現実)への理論的接近の訓練を積みたいと思います。その上で年度の最後には、各自の興味・関心にしながらってレポートを提出してもらいます。 その他、例年、ゼミ合宿を年 2 回(夏と冬)実施しています。実施時期は、夏合宿は 9 月上～中旬、冬合宿は 2 月最初の土日、ということが多いです。また、他大学(7 大学)との合同ゼミ発表会(オンライン)も実施しています。こうした各種イベントの企画・運営を通じて、学んだ知識の修得を目指します。オプションとして、地域に飛び出して活動する企画運営も考えています。 その他、適宜レポートの提出を求めます。							
〔科目の到達目標〕 輪読等を通じて、さまざまな専門用語(概念)や理論を学んでいきます。そうした多様な概念や理論の意味内容、そしてそれらの使用方法を十分に理解することが 評価(C) となります。最低限の理解が 評価(D) です。 上記したそうした概念を、社会で起こっている経営上の諸問題に当てはめて考えられるようになるのが 評価(B) です。これは演習で学習した内容の例を、自分自身で探し出せるようになる、ということでもあります。 経営上の諸問題に対する答えが1つであることは、実は、全くと言っていいほど、ありません。そのような問題を経営学上の概念を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考えを導けるようになることが 評価(A) です。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 自ら考え、自ら調べ、自ら行動する主体性							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断する。以下①～③は「優先順位の高低」を意味しない。 ① 出席状況、② 演習活動への貢献度(発言、活動など)、③ 各種レポート							
〔教科書等〕 適宜、示します。							
〔実務経歴〕 該当なし							
授業スケジュール							

時期	テーマと内容
4 月 ～ 8 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・合同ゼミ合宿に向けたグループワークなど
9 月	・合同ゼミ合宿(予定)
9 月 ～ 1 月	・テキストの輪読 ・ケースに基づくディスカッション ・冬合宿に向けたグループワークなど
2 月	・冬合宿(予定) ・合同ゼミ発表会(予定) ※ 時期が変更される可能性あり。
試験	・各種レポート